（参考）

当法人の概要及び周辺地域の状況

社会福祉法人悠朋会は平成１０年に設立し、第二種社会福祉事業として、通所介護事業：千代田デイサービスセンター、訪問介護事業：ヘルパーステーション千代田、居宅介護支援事業：千代田介護支援センター、放課後児童健全育成事業：児童クラブいちばん星の運営を行っている。

社会福祉法人というと特養等の大規模な施設がイメージされるが、法人理念である「いつまでも粘り強く自宅での生活を続けていきたいという利用者の願いを叶える」ため、大規模な施設を持たず在宅サービスに特化した事業展開を行っている。

利用者の望む千代田の介護として、デイサービスでは「親切な職員と美味しい食事」を目標に掲げ、自前の厨房で作る食事は好評を得ている。ヘルパーステーションでは「気持ちの良いヘルパーと、話を聴いてくれるサービス提供責任者」を目標に掲げ、利用者に寄り添う介護を心掛けている。ケアマネでは「頼りになるケアマネジャー」を目標に掲げ、利用者目線でのプラン作成を行っている。またそれぞれの事業所が連携し、迅速かつ柔軟に対応することが強みである。

事業規模として利用者数でみると、千代田デイサービスセンター、ヘルパーステーション千代田は市内で常に上位の位置にいるが、近年市内の通所介護、訪問介護の事業所数が大幅に増加し、新規利用者の獲得が困難な状況となっており、事業所の特徴付け・差別化は必要と思われる。

利用者数を増やす方策のひとつとして今後居宅介護支援事業所（ケアマネ）の職員数を増やしていきたい。

現在の法人運営上の課題のひとつとして職員の高齢化があり、60歳以上の職員率がかなり高く80歳を過ぎた職員も複数在籍している。職員には長く働き続けてもらうことを理想としその結果でもあるが、新規職員獲得が難しい状況であり、金銭面だけでなく魅力ある施設、福利厚生を充実させる等、処遇・待遇の改善を図ることで職員獲得の一助としたい。東日本大震災や熊本地震の際には複数の職員を災害派遣し、その経験から災害時の防災拠点の役割を重視している。

既存事業所及び新規事業地は相模原市千代田に位置し、いずれも星が丘地域包括区域に属している。新規事業地については、中央地域包括・光が丘地域包括の区域にも隣接しており、それぞれのセンターからは少し離れている。それぞれの包括区域では、比較的活発に様々な住民活動がなされている。

この地域は住宅街であり、古くからの住民もいるが、比較的新しい世代の住民もおり混在した状況となっている。古くからの顔馴染みという住民同士の繋がりはあるが、その住民も高齢化し外出機会が減ることで繋がりは薄くなってきている。公民館や世代間が交流するような施設については、新規事業地周辺には見当たらず、気軽に立ち寄り、同世代・他世代の交流が出来る施設の必要性が感じられるため、本事業計画の中にそのようなことを叶えるための施設設計を行いたい。

本事業は、落ち着いた雰囲気で居心地の良い福祉施設で、地域の方が気軽に利用でき、地域住民や職員との顔の見える交流を促進したいと考えている。設計者の幅広く魅力的な提言を期待したい。